

2020（令和2）年度学校自己評価報告書

2021（令和3）年4月

学校法人AOI国際学院

AOI国際福祉専門学校

1 建学の精神

本校は、葵会グループの精神である「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立し健康な人生をトータルにケアしていく「福祉のこころ」を介護現場で実践できる人材の養成に努める。

2 教育方針

(1) 入学受け入れ方針（アドミッションポリシー）

本校は、支援・介護の専門化を目指す国内外の学生を対象に、2年間の教育課程で介護福祉士国家資格の取得を目指します。わが国の高齢化社会でお年寄りや障害を持つ方は、“安心の介護”を求めています。本学では思いやりと感性が豊かな介護福祉士を目指し、広く福祉の現場で活躍する人間性豊かな学生を求めています。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

本校介護福祉学科のカリキュラムは、「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の領域が介護の理論的裏づけによる構成になっています。介護の実務は、人に関わる実践的な学問です。学内で学んだ知識や技術と学外で学ぶ実習が統合されるよう進めます。その中でも特に適切な介護サービスの能力を養う「介護過程」では、その理解にあたり「アセスメント・計画の立案・実施・評価」といった知識と技術の統合を段階的に進めて行きます。その他、留学生の介護能力を高めるため「介護の日本語」「ビジネス日本語」や「手話」など本学独自の科目も開設しています。

(3) 専門士（教育・社会福祉専門課程）授与の方針（ディプロマポリシー）

介護福祉学科では教育・社会福祉専門課程の所定の課程を修了し、次の要件を全て満たす学生について専門士証書を授与します。

- ①本校介護福祉学科に2年以上在学し、定められた科目を履修した者
- ②学期末に実施される定期試験で、各科目（介護実習を含む）とも基準点に達している者
- ③専門士（教育・社会福祉専門課程）にふさわしい人格見識と健全な精神を有していることが学科会議で判定された者
- ④定められた学費及び諸経費を納めた者

令和2年度 学校自己評価について

本校は、2016（平成28）年度に開校し、2017（平成29）年度から介護福祉士養成施設の認可を受け介護福祉士の養成を行っております。2019（平成31）年3月に第1期生を送り出し、2020（令和2）年3月に第2期生を、2021（令和3）年3月に第3期生を送り出しました。しかし、開校以来5年を経過しやっと6年目を迎える発展途上の学校であり、入学定員の確保、財政的基盤の整備等取り組むべき課題は多くあります。そのような中、建学の精神である {「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立し健康な人生をトータルにケアしていく「福祉のこころ」を介護現場で実践できる人材の養成} を基本理念とし、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として令和2年度学校評価を実施し、現状を把握すると共に問題点を洗い出し改善に向けて教職員一丸となって取り組み、社会から必要とされる人材の養成に取り組んでまいります。

3. 対象期間 2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日

4. 実施方法

1. 専修学校における学校評価ガイドラインを参考に実施
2. 年度末終了後に評価を実施
3. 評価結果はホームページに掲載

5. 自己点検評価項目

以下の11項目について実施

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像 | ◇基準6 : 教育環境 |
| ◇基準2 : 学校運営 | ◇基準7 : 学生の受け入れ募集 |
| ◇基準3 : 教育活動 | ◇基準8 : 財務 |
| ◇基準4 : 学修成果 | ◇基準9 : 法令等の遵守 |
| ◇基準5 : 学生支援 | ◇基準10 : 社会貢献・地域貢献 |
| | ◇基準11 : 国際交流 |

6. 評価項目に対する評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
1-1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	「治す」と「防ぐ」を介護現場で実践できる介護福祉士の養成という理念が明確に定められ、パンフレットや学生ハンドブックに示すと共に、ホームページでは、6カ国7言語により公開している	特になし	定期的な見直しを行うと共に、継続して周知する努力を行う
1-2	学校における職業教育の特色は何か明確になっているか	4	本校は介護福祉士養成施設であり、教育および卒業後の目的も明確である	特になし	定期的な見直しを行うと共に、継続して周知する努力を行う
1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	現代社会のニーズに合致した教育分野であり、今後益々必要となる分野である	特になし	定期的な見直しを行い、社会のニーズを踏まえた将来構想を策定する
1-4	学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	4	パンフレットや学生ハンドブックに示すと共に、入学直後のオリエンテーションで説明している また、ホームページでは、6カ国7言語により公開している	特になし	わかりやすい表現等を取り入れ、学生への周知に注力する
1-5	学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	現代の介護に必要なカリキュラムを策定し教育を行っている	特になし	業界のニーズを捉え、カリキュラムや人材育成方法を検証する

◇基準2 : 学校運営

総合評価

3.9

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目	2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	目的に沿った運営方針は示されている	特になし	目的に沿った運営に努める
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	運営方針に沿った事業計画が策定されている	特になし	事業計画に沿った運営に努める
2-3 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	学校運営に関する規程、組織は整備されている	特になし	規程に沿った運営に努める
2-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	人事給与に関する規程等は整備されている	特になし	運用しながら必要に応じて規程を見直す
2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3	組織としての運用はなされている	規程の整備が必要	運用しながら必要に応じて規程を見直す
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員一人一人が倫理観を持ち学内規程や法令を遵守する事に自発的に取り組んでいる	特になし	常にコンプライアンスを意識した行動に努める
2-7 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	ホームページで公開している	特になし	開示内容の検証
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	データの一元管理や予定表の共有化を推進した また、学籍管理システムを導入した	学籍管理システムの活用	学籍管理システムを活用し業務の効率化を図る

◇基準3 : 教育活動

総合評価

3.6

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づき教育課程の編成、実施方針等が策定されている	特になし	「社会福祉士及び介護福祉士法」の規程に基づいて策定していく
3-2	教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	教育理念・人材育成像や業界のニーズを踏まえ、教員が中心となり、教育到達レベル、学習時間の確保を明確にしている	特になし	教育目標への到達については個人差があるので、個人指導にも取り組んでいく
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムの作成は体系的に行っている	特になし	カリキュラムの作成、見直し等の検証を行っていく
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	カリキュラムに介護福祉士としての実践的な実習が含まれている	特になし	実習施設との懇談会を通じて実習の評価を行っているが、これを継続していく
3-5	介護福祉分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づき教育課程が編成されており、それ以外の科目の見直しは科目毎に行っている	特になし	カリキュラムの作成、見直しにより充実した教育を構築していく
3-6	介護福祉分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	カリキュラムに介護福祉士としての実践的な実習が含まれている	特になし	実習施設との懇談会を通じて実習の評価を行っているが、これを継続していく
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	完全な実施に至っていない	実施体制の整備	実施体制の整備を急ぐ

3-8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	介護実習の評価を取り入れている	特になし	外部関係者の評価を取り入れて授業内容の改善を図っていく
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則及び学生ハンドブックに規定及び明示している	特になし	各基準を遵守し正確な運用を引き続き行う
3-10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	国家試験対策を取り入れている	特になし	外部講師等の活用を検討
3-11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	介護施設経験のある教員を確保し、実体験を通じた人材の育成を行っている	特になし	社会のニーズを捉え必要な人材の育成に努める
3-12	介護福祉分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2	特別な対応は行われていない	教員採用は常にあるわけで無く常時提携先を確保することは困難である	実習先施設等との連携を確保する
3-13	介護福祉分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	外部研修に参加し研鑽を積んでいる	自発的な研修会等への参加	自発的な参加を促して行きたい
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	外部研修に参加し研鑽を積んでいる	対象者が限られてしまう	人事異動等により多くの職員に異なる仕事を経験させ多方面からの視点により業務を推進できるよう取組む

◇基準4 : 学修成果

総合評価

3.6

評価基準 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
4-1	就職率の向上が図られているか	4	就職率は100%	特になし	今後も現在の取組みを継続する
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4	国家試験合格者が8名から10名に増えた	留学生が多く、日本語の壁に苦勞している	国家試験対策講座を開催すると共に、2020年度から1問1答方式の問題集をショートホームルームで実施している 今後も現在の取組みを継続する
4-3	退学率の低減が図られているか	3	学業成績による退学は無い	本校入学前の日本語学校当時のオーバーワークにより在留資格の更新手続きが出来ず、退学となる	引き続き入試段階で、オーバーワークのチェックを厳しく行う
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	数カ所の就職先からの情報を得ている	卒業生全ての情報を得ていない	就職先への調査数を増やす
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	卒業生を学校に招いて在校生との交流会を開催し、その際に卒業後のキャリア形成等に関して意見交換を行い教育活動の改善に活用している	全ての卒業生を招くことが出来ない	少しでも多くの卒業生に参加を促す

◇基準5 : 学生支援

総合評価

3.9

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目	2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	就職への支援体制は整備されている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	担任、生活指導教員を中心に面談等で相談に応じ、細かいケアを行っている。	特になし	学生が相談しやすい環境の整備を心がける
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金制度や短期貸付制度を整えている	特になし	奨学金制度の充実に向けて活動する
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回の健康診断を実施し、問題があれば学生へのフォローを行っている、また看護師資格を持つ教員が日常の健康管理を行っている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-5 学生の生活環境への支援は行われているか	4	学内貸付金制度を設け生活資金の不足などの際に対応している また、引っ越しの必要がある学生には不動産会社を紹介しスムーズな引っ越しが出来るよう支援するなど、生活環境全般に渡る支援をしている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-6 卒業生への支援体制はあるか	4	卒業生からの相談には、元担任や関係部署で対応している	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する

5-7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	職業訓練委託校として社会人の受入れを行っている	特になし	今後も実務者研修などの講座開設に向けて検討をおこなう
5-8	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	高等学校の出前授業等のチャンスがあれば行っている	高等学校の受入が少ない	高等学校との連携強化

◇基準6 : 教育環境

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	介護福祉士養成施設として認定されており施設、設備は十分整備されている	特になし	施設、設備の点検、整備を怠らず教育環境の整備に努める
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	実習施設は適正に確保されている	特になし	引き続き現状の体制を維持する
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4	新入生、在校生を対象に、4月に防災訓練を実施している 教職員、在校生全員分のヘルメットを整備している 法令に従い点検を行っている	特になし	引き続き現状の体制を維持する

◇基準7 : 学生の受け入れ募集

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	学生募集活動は適正に行われている	日本人の入学者が少ない	県立、私立の高校へのアプローチを積極的に行い、獲得に向けての活動を行う
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	オープンキャンパスにおいて国家試験合格者数や就職率等を説明している	特になし	引き続き正確な情報発信を行う
7-3	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	他校と比較しても同等であり、社会通念に照らし合わせても妥当だといえる	特になし	経済状況や他校の状況を確認しながら決定していく

◇基準8 : 財務

総合評価

3.8

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	過年度からの蓄積と当年度の収支により借入をせず運営出来ている	コロナの影響もあり学生確保に苦勞した	学生確保に注力する
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収入と支出のバランスはとれている	特になし	健全経営を目指し収入と支出のバランスを取りながら運営をおこなう
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	決算毎に監事による監査を実施している	特になし	引き続き正確な会計処理を目指す
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページおよび事務室に備え付け閲覧可能となっている	特になし	引き続き情報公開の整備に注力する

◇基準9 : 法令等の遵守

総合評価

3.8

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令及び設置基準を遵守し適正な運営を心がけている	特になし	引続き適正な運営を心がけていく
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	書類等は施錠による管理を行っている データに関しては、アクセス権限の設定およびパスワードにて管理している	特になし	引続き適切な保護を心がけていく
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	2019年度の問題点を幾つか改善した	全ての問題点を解消出来ていない	体制を整備し問題点の改善に向けて取組む
9-4	自己評価結果を公開しているか	4	公開している	特になし	自己評価を適切に行い公開する

◇基準10 : 社会貢献・地域貢献

総合評価

2.7

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1	特別な取組みは行われていない	体制の整備が整っていない	地域のニーズを汲み取り地域貢献に向けて検討したい
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	コロナウイルスの蔓延によりボランティア活動が制限され、特別な活動は出来なかった	ボランティア活動への意識付け	地域のニーズを汲み取りボランティア活動の推進に向けて取組みたい
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	職業訓練委託校として社会人の受入れを行っている	特になし	今後も実務者研修などの講座開設に向けて検討をおこなう

◇基準11 : 国際交流

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2020年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
11-1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	受入れについては日本語学校等と連携を取り長期戦略を持って受入れを行っている	日本語学校により留学生のレベルが異なる	日本語及び学力のレベルアップを目指す
11-2	受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	受入れ、在籍管理においては法的な手続きも含め適切に行われている	入学前の資格外活動の就労時間等の把握が難しい事が多い	受験時の必要書類の見直しを行い資格外活動の就労時間等の把握に努める
11-3	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか	4	正課外に日本語教育を行う等学習面でのフォローを行っている、また、生活指導ではアルバイト先の管理や在留期間の更新手続き等のフォローを行っている	特になし	留学生個々の違いを把握しながら、適切な指導体制を整備する
11-4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	国内の就職先からは高評価を得ている	特になし	引き続き留学生に向けた教育を推進する